

◆ 今週のコメント

- ・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が41例(男性21例(10歳代3例, 20歳代6例, 30歳代2例, 40歳代5例, 50歳代2例, 60歳代2例, 年齢非公開1例), 女性19例(20歳代6例, 30歳代4例, 40歳代3例, 50歳代4例, 60歳代1例, 80歳代1例), 性別及び年齢非公開1例)あり, 本年の累積報告数は3,192例になりました。
本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- ・ **インフルエンザ**は, 市内69の定点医療機関からの報告はありませんでした。全国的にも報告数はほとんどありません。
京都市のインフルエンザの発生状況は下記のホームページをご参照ください。
○京都市のインフルエンザの発生状況(衛生環境研究所)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>
- ・ **RSウイルス感染症**は, 京都市では3例の報告がありました(定点当たり報告数0.07)。全国では, 定点当たり報告数は前週と同じ0.58で, 本年第1週以降, 増加傾向が続いています。第8週以降は過去5年平均値を上回っていることに加え, 前週からは流行閾値(注)を超えています。現在, 九州地方で多く報告されており, 今週は宮崎, 佐賀, 熊本各県でそれぞれ4.89, 4.65, 4.32となっています。また, 近畿地方では, 大阪府で比較的多くの報告があり, 前週は1.21, 今週は1.48(京都市のおよそ20倍)で, 第4週から連続して増加しています。京都市では流行の兆候はありませんが, 全国的には流行とも言える地域があり, 隣接する大阪府でも報告が増えていることから, 今後の発生動向に注意が必要です。基本的な感染予防策をしっかりと行いましょう。新型コロナウイルス感染症と同様, 手洗いやマスクの着用などが重要です。
(注) 流行閾値: 過去のデータから算出した値で, それ以上報告数が増えたら, その時点ではかなり多いと考えられる値。

◆ 今週のトピックス: <新型コロナウイルス感染症>

京都市の第11週の新型コロナウイルス感染症の患者数は41例の報告がありました。1週間当たりの患者数は, 第3週の636例をピークに6週連続して減少していましたが, 前週から増加に転じ, 今週も微増でした。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 5例(肺結核 1例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 なし)
【1月以降の累積報告数 45例(肺結核 18例, その他結核 15例, 潜在性結核感染者 12例)うち喀痰塗抹陽性 7例】
- ・ **新型コロナウイルス感染症 41例**【1月以降の累積報告数 3,192例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

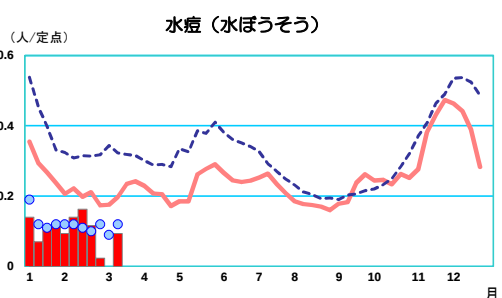
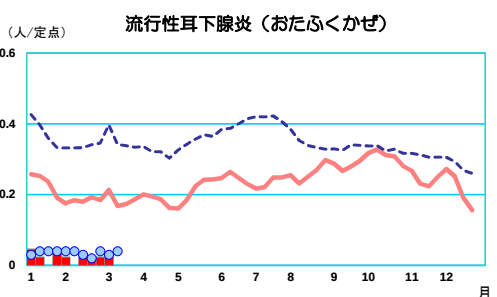
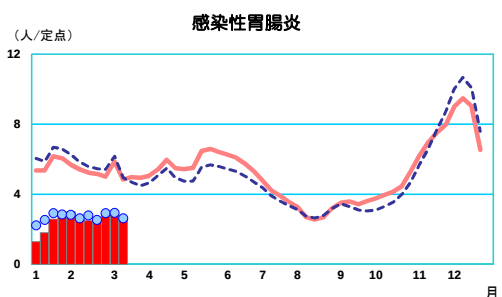
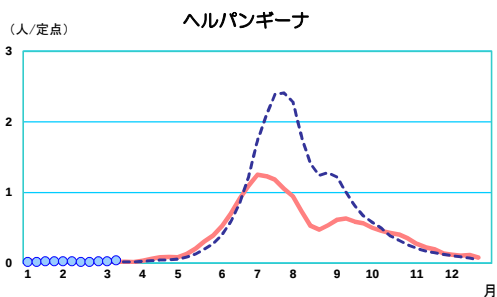
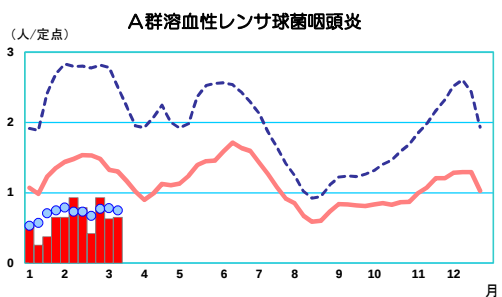
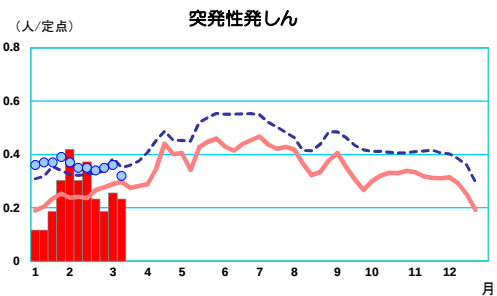
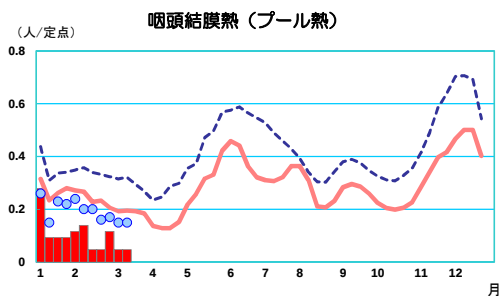
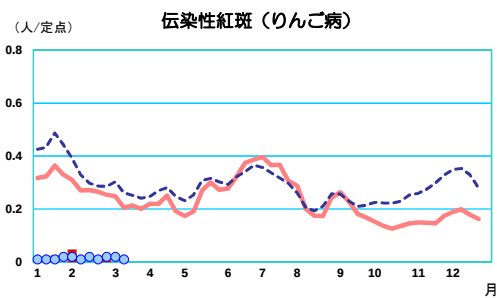
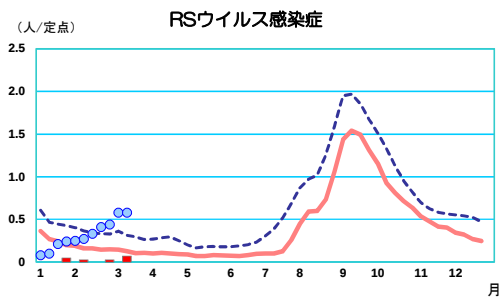
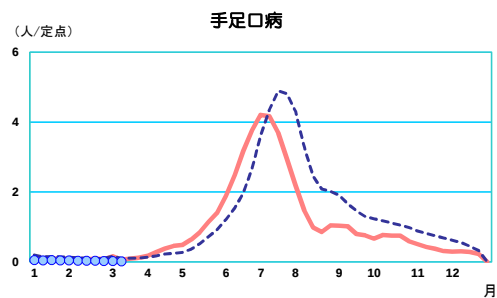
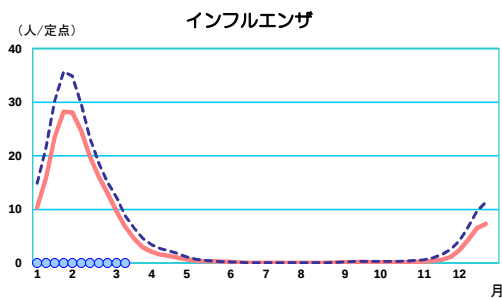
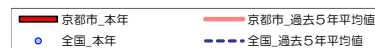
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.65	114
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.65	28
	③ 突発性発しん	0.23	10
	④ 水痘	0.09	4
	⑤ RSウイルス感染症	0.07	3
	⑤ ヘルパンギーナ	0.07	3
眼科	流行性角結膜炎	0.00	0

【次ページ以降の主な内容】

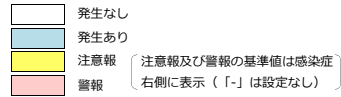
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <新型コロナウイルス感染症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2021年3月24日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
※ 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

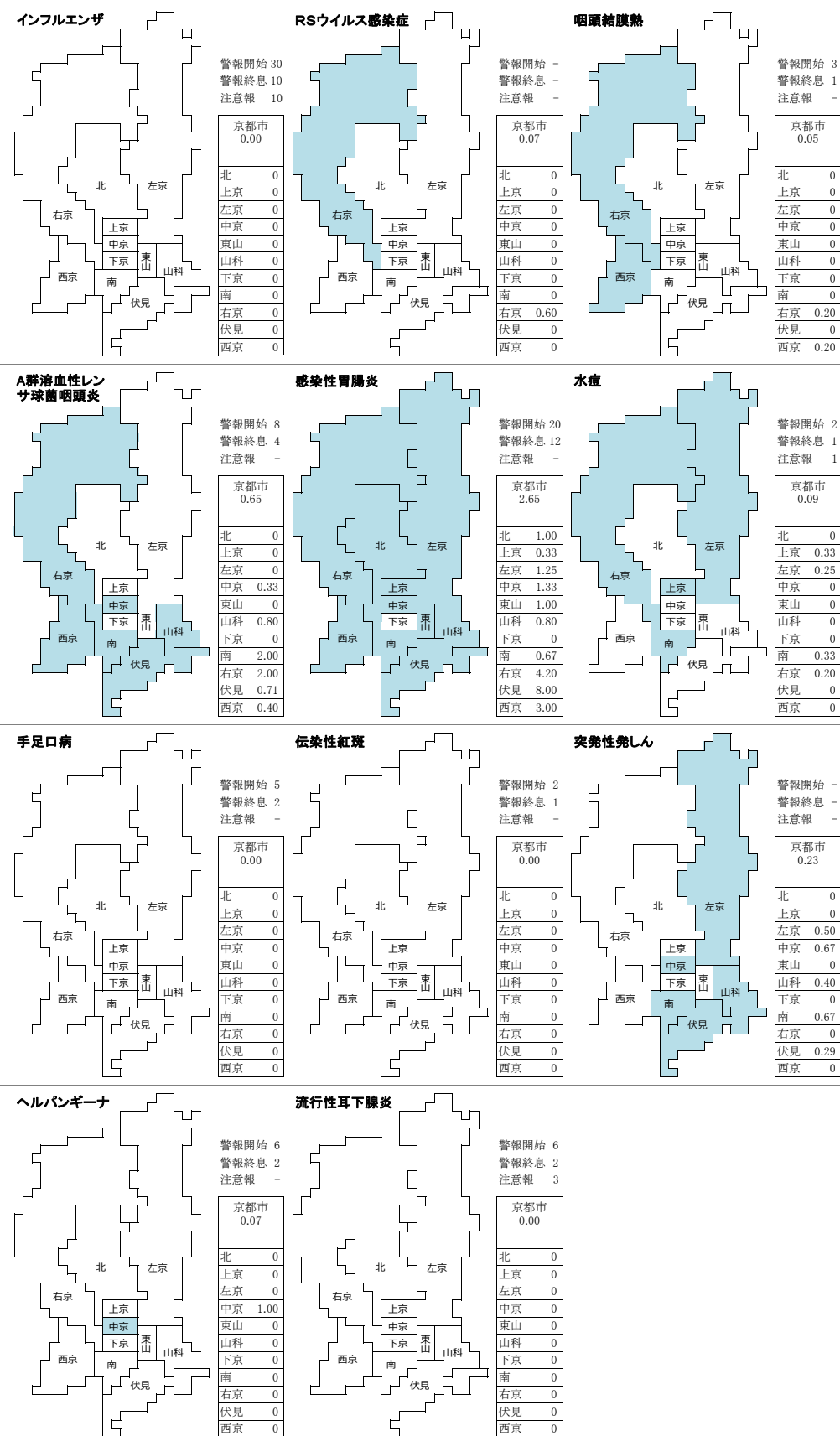
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2021年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2021年 第11週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や
「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第11週(3月15日～3月21日)トピックス:＜新型コロナウイルス感染症＞

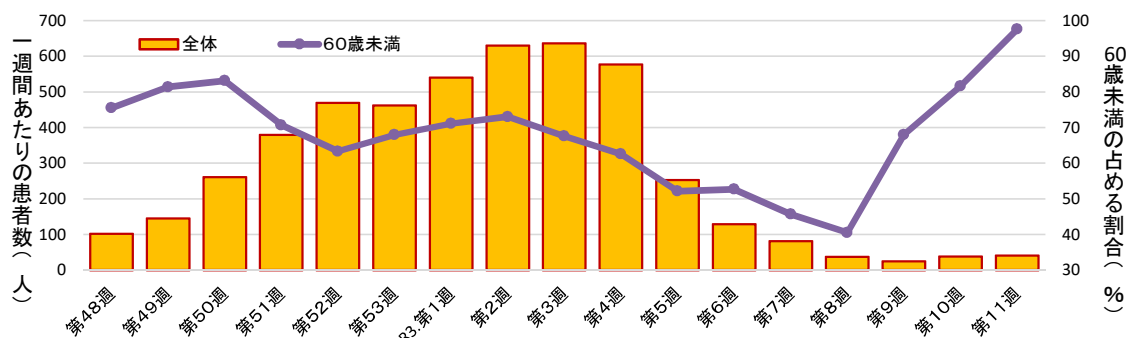
京都市の第11週の新型コロナウイルス感染症の患者数は41例の報告がありました。1週間当たりの患者数としては、第3週の636例をピークに第9週まで6週連続して減少していましたが、前週(第10週)にわずかに増加に転じ、今週も前週より微増しました。患者数の増加はわずかですが、全患者数に対する、60歳未満の占める割合の推移を見ると、第8週以降急増しています(図1)。一般的に60歳未満の方は活動量が多い上、無症状あるいは軽症の場合が多いため、感染を広げる可能性が高くなります。これまでも患者数が増加する前には60歳未満の割合が高かったことから、今後の動向には十分な注意が必要です。

また、これまでの新型コロナウイルスと異なる特徴を持つ、変異株が複数確認されており、これによる感染者が多数報告されています。厚生労働省によると、3月23日現在、全国で549例、空港検疫で100例、合計649例が、京都府を含む26都道府県で確認されています。中でも多いのは英国で確認された変異株による感染です(図2)。

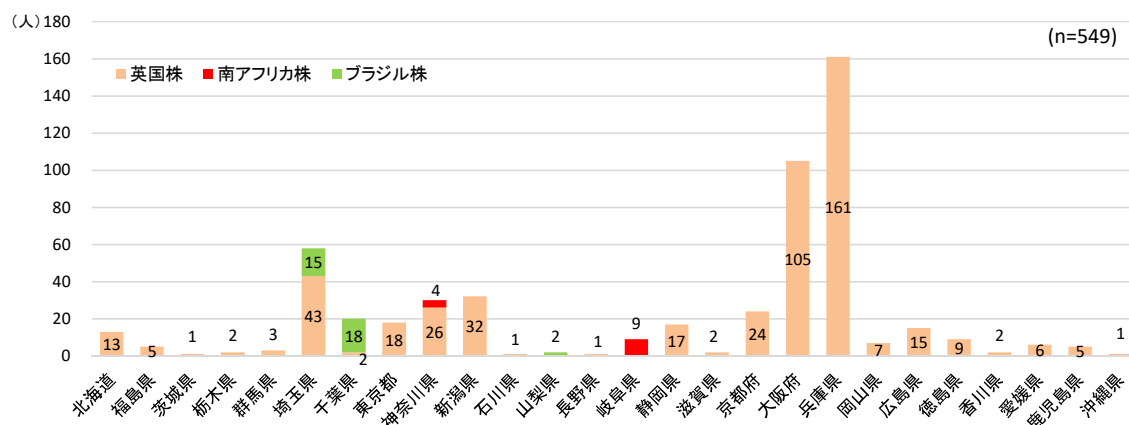
新型コロナウイルスは、約3万の塩基で構成されたRNAウイルスで、この塩基が2週間に1箇所程度で変異していると言われています。現在確認されている変異株は、表1のとおりで、変異した塩基の部位によって、従来株よりも感染力が強い、重症化し易い、また、ワクチンが効きにくいなどの可能性が指摘されています。国内で多く確認されている英国株は、感染のし易さと、重症化し易い可能性が指摘されています。今後さらに新たな特徴を持つ変異株の出現の可能性もあることから、こちらの動向にも十分な注意が必要です。

しかしながら、変異株であっても、感染予防策は、これまでと同様に3密の回避、マスクの着用、手洗いなど基本的な対策が有効です。今後もうつらない、うつさない生活様式、行動様式を心掛けましょう。

(図1) 京都市の週ごとの患者数の推移 (令和2年第48週～令和3年第11週)



(図2) 全国の新型コロナウイルス変異株の感染確認者数 (3月23日時点 厚労省資料より)



(表1) 変異株の種類と指摘されている特徴

変異株	変異部位		指摘されている可能性		
	N501	E484K	感染し易い	重症化し易い	免疫やワクチンの効果低下
英国株(VOC-202012/01)	+	—	○	○	
南アフリカ株(501Y.V2)	+	+	○		○
ブラジル株(501Y.V3)	+	+	○		○
フィリピン株	+	+	○		○

厚生労働省資料より

□厚生労働省では、新型コロナウイルス感染症に関する情報を掲載しています。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

□京都市では、新型コロナウイルス感染症の最新の動向を提供しています。

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第11週

疾病,行政区別報告数

2021年3月15日～2021年3月21日

データ入手日:2021年3月24日

	インフル エンザ（※1）	R Sウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
男女合計																		
北	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	-	-	5	1	-	-	2	-	-	-	-					
中京	-	-	-	1	4	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-							
山科	-	-	-	4	4	-	-	-	2	-	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	-	-	-	6	2	1	-	-	2	-	-							
右京	-	3	1	10	21	1	-	-	-	-	-	-	-					
伏見	-	-	-	5	56	-	-	-	2	-	-	-	-					
西京	-	-	1	2	15	-	-	-	-	-	-	-	-					
京都市計	-	3	2	28	114	4	-	-	10	3	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフル エンザ（※1）	R Sウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
男女合計																		
北	-	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	0.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	-	-	1.25	0.25	-	-	0.50	-	-	-	-					
中京	-	-	-	0.33	1.33	-	-	-	0.67	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-							
山科	-	-	-	0.80	0.80	-	-	-	0.40	-	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	-	-	-	2.00	0.67	0.33	-	-	0.67	-	-							
右京	-	0.60	0.20	2.00	4.20	0.20	-	-	-	-	-	-	-					
伏見	-	-	-	0.71	8.00	-	-	-	0.29	-	-	-	-					
西京	-	-	0.20	0.40	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-					
京都市計	-	0.07	0.05	0.65	2.65	0.09	-	-	0.23	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第11週

年齢階級, 疾病別報告数

2021年3月15日～2021年3月21日

データ入手日:2021年3月24日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳－	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳以上						
男女合計	年齢4	総数	0歳	1歳－	5歳－	10歳－	15歳－	20歳－	25歳－	30歳－	35歳－	40歳－	45歳－	50歳－	55歳－	60歳－	65歳－	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
RSウイルス感染症	年齢3	3	－	－	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		2	－	－	1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		28	－	－	3	3	3	2	3	3	3	2	2	3	－	1						
感染性胃腸炎		114	－	2	15	11	15	13	11	7	5	5	4	12	1	13						
水 痘		4	－	－	1	－	－	1	1	－	－	－	－	1	－	－						
手 足 口 病		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		10	－	3	6	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		3	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1						
流行性耳下腺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳－	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳以上						
男女合計	年齢4	総数	0歳	1歳－	5歳－	10歳－	15歳－	20歳－	25歳－	30歳－	35歳－	40歳－	45歳－	50歳－	55歳－	60歳－	65歳－	70歳以上				
インフルエンザ ^{※1)}	年齢1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
RSウイルス感染症	年齢3	0.07	－	－	0.07	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		0.05	－	－	0.02	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.65	－	－	0.07	0.07	0.07	0.05	0.07	0.07	0.07	0.05	0.05	0.07	－	0.02						
感染性胃腸炎		2.65	－	0.05	0.35	0.26	0.35	0.30	0.26	0.16	0.12	0.12	0.09	0.28	0.02	0.30						
水 痘		0.09	－	－	0.02	－	－	0.02	0.02	－	－	－	－	0.02	－	－						
手 足 口 病		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		0.23	－	0.07	0.14	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		0.07	－	－	0.02	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.02						
流行性耳下腺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎 ^{※2)}	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 ^{※3)}		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 ^{※4)}		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第11週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2021年3月24日

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		－	1	1	1	－	－
RSウイルス感染症		1	－	－	1	－	3
咽 頭 結 膜 熱		6	2	2	5	2	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		40	34	18	40	27	28
感染性胃腸炎		116	107	113	126	122	114
水 痘		6	7	5	1	－	4
手 足 口 病		1	－	2	－	1	－
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	1	－	－
突発性発しん		13	16	10	8	11	10
ヘルパンギーナ		2	2	2	2	1	3
流行性耳下腺炎		－	1	1	1	1	－
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		－	－	－	－	－	－
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		185	170	154	186	165	164

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		－	0.01	0.01	0.01	－	－
RSウイルス感染症		0.02	－	－	0.02	－	0.07
咽 頭 結 膜 熱		0.14	0.05	0.05	0.12	0.05	0.05
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.93	0.79	0.42	0.93	0.63	0.65
感染性胃腸炎		2.70	2.49	2.63	2.93	2.84	2.65
水 痘		0.14	0.16	0.12	0.02	－	0.09
手 足 口 病		0.02	－	0.05	－	0.02	－
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	0.02	－	－
突発性発しん		0.30	0.37	0.23	0.19	0.26	0.23
ヘルパンギーナ		0.05	0.05	0.05	0.05	0.02	0.07
流行性耳下腺炎		－	0.02	0.02	0.02	0.02	－
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		－	－	－	－	－	－
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		4.30	3.94	3.57	4.32	3.84	3.81

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。